

ワークフローを用いたアプリケーション開発

2J-7

松田佳之 栗林鉄浩 江口敦子
 (株)日立製作所 公共情報事業部

1. はじめに

グループウェアは情報共有を目的とするものが多いが、最近の傾向としては、グループウェアの持つワークフロー機能を利用して日々の業務に密接に関係するアプリケーションを開発するというニーズが高まっている。今回は日立製作所が開発したグループウェア "Groupmax" を適用することで旅費精算業務における伝票起票から経理部門の決裁にいたるまでの業務の流れをワークフロー化し、データの管理も含めてシステム化を図った。

本論文は、旅費精算業務のワークフローシステム化の開発過程を示し、その際における効果、検討事項などを示すものである。

2. 旅費精算業務のワークフロー化

2.1 現行業務の分析

現行業務にワークフローを適用するに当たって重要な点は、従来の業務手順をそのままシステム化するのではなく、業務手順を見直し業務のスリム化を図ることである。図1に現行の業務手順を示す。

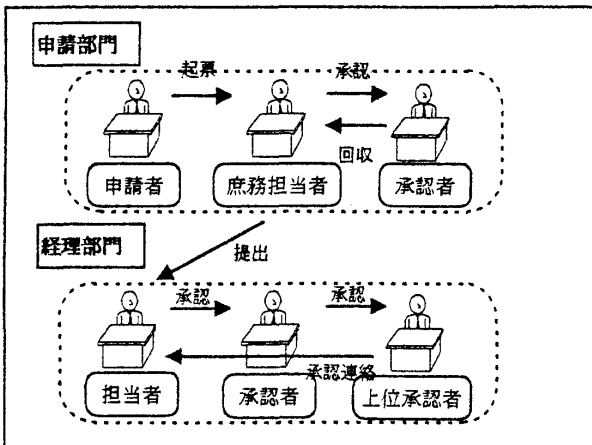


図1 旅費精算業務のワークフロー

現行業務手順は申請部門の庶務担当者、また経理部門の旅費担当者への伝票の回覧が重複している。このように現行業務の手順を見直し、作業効率を検討することによりスリム化されたビジネスプロセス（ワークフロー 以下、BP と略す）が定義できる。

2.2 ノードにおける伝票の配布方式

次に各回覧先(ノード)における伝票の配布方式を検討した。配布方式には、配布するユーザを指定し直接配布する方法とロール(同じ役割をもったユーザのグループ)を指定し複数人に配布する方法の2つがある。伝票の申請部門では、伝票を担当する庶務及び上長がきまっているために、直接配布する方法が適している。一方、経理部門では各部門から送られて来た伝票を複数の作業員で処理するためノードにロールを指定しユーザで任意に取出す方法が適している。(図2 A B 参照)

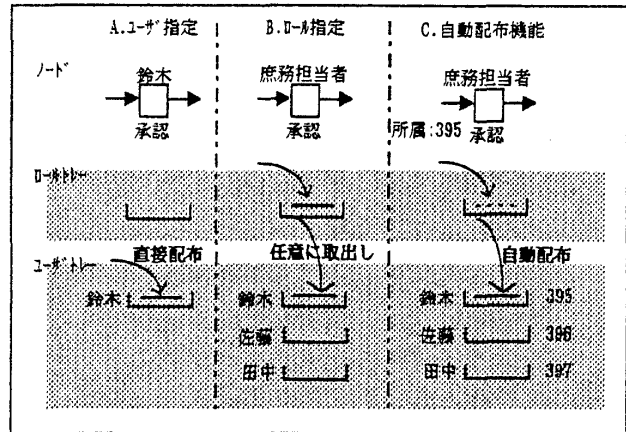


図2 ノードにおける伝票の配布方式

しかし、直接配布方法では、図2 Aのようなユーザ指定により各々のユーザに対して1つのBPが必要となりシステム管理上保守性が劣化するという問題がある。そこでロール指定方式を採用し、かつ申

Development of applications with Workflow

Yoshiyuki Matsuda, Tetsuhiro Kuribayashi, Atsuko Eguchi

Government & Public Corporation Information Systems Division, Hitachi Ltd.

Shinsunaplaza 6-27, Shinsuna 1-Chome, Koto-ku, Tokyo 136, Japan

